

アレルギーが 命を脅かすとき

— アナフィラキシーショックと命を救う薬 —

食物アレルギーやハチ刺されなどで起こる
アナフィラキシーショック。

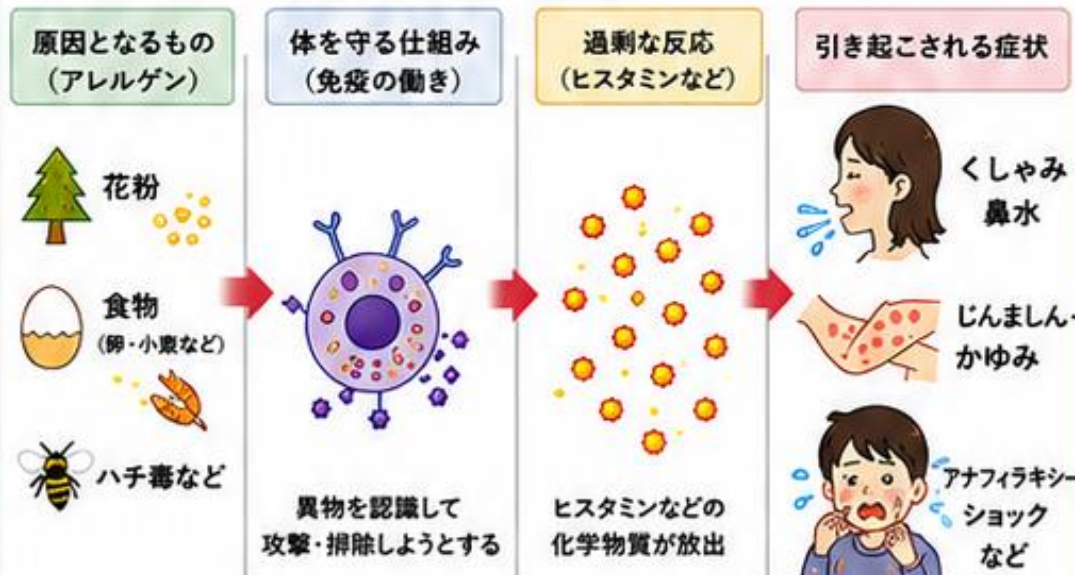
たった数分で命に関わることもあります。

その仕組み（病態）と、
命を救う薬の働きについて、
わかりやすく解説します。



アレルギーとは？

体に入ってきた異物（アレルゲン）から
体を守る「免疫」の仕組みです。
ときにこの仕組みが過剰に反応し、
さまざまな症状を引き起こします。



通常は体を守る免疫が、過剰に反応すると命に関わることもあります。

アレルギーを正しく理解し、
命を守る方法を一緒に学びましょう！



授業で学ぶポイント

1 アナフィラキシー とは？

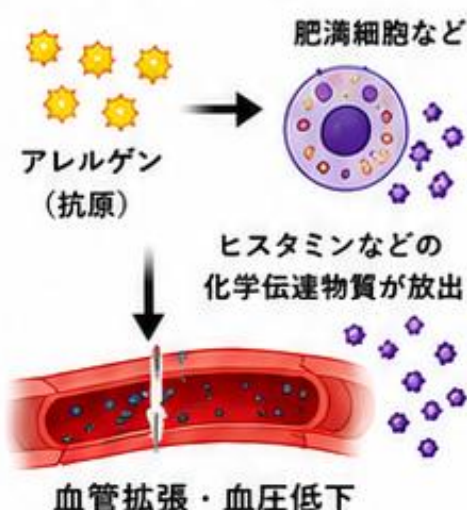
アレルギー反応が全身に起こり、
血圧低下や呼吸困難などを
引き起こす重篤な状態です。



呼吸が苦しい
意識がもうろう
血圧低下
じんましん
めまい・吐き気

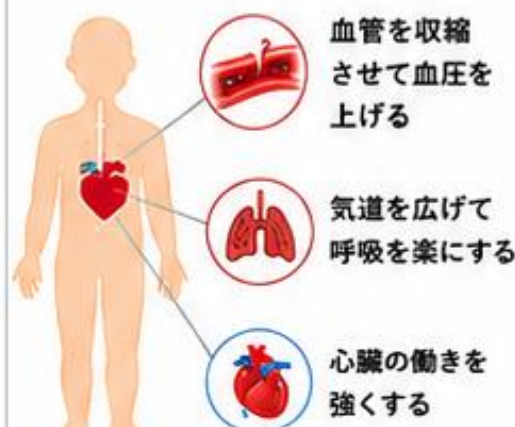
2 なぜ起こるの？ 仕組みを理解しよう

アレルゲンが体内でヒスタミン
などを放出させ、血管が広がり、
血圧が下がります。



3 命を救う薬 「アドレナリン」

アドレナリンは血管を収縮させ、
呼吸を楽にし、心臓の働きを
助けます。迅速な投与が重要！



迅速な投与が命を救います！

4 治療の最新トピック

注射だけでなく、鼻から使える
新しい治療薬も登場！
治療の選択肢が広がっています。

エピペン®
(注射薬)



ネフィー®
(点鼻薬)



- ☑ 使いやすさが向上
- ☑ 患者さんの負担を軽減
- ☑ 治療の幅を広げる期待



鼻スプレーでも命を救えるの？

授業内容



- アナフィラキシーの症状と仕組みを図解で理解
- なぜ命に関わるのか？ 免疫の働きとアナフィラキシーの関係
- 命を救う薬「アドレナリン」の働き
- 注射薬（エピペン®）と点鼻薬（ネフィー®）の違いと特徴
- 最新の治療トピックと今後の展望
- 薬学が「命を守る」ためにどう役立つのかを考える

薬学の
面白さ・大切さが
きっとわかる
20分！



帝京平成大学 薬学部

場所: 302教室

時間: 13:00~13:50

担当教員: 薬物治療学ユニット
秋山 晴代

オープンラボ

薬学のラボを体験しよう！！
タンパク質を見てみよう

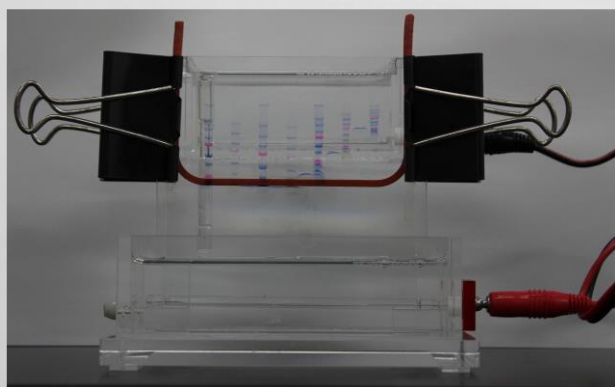
会場・時間

専門ラボ5（4階 417）10:00～15:00
（見学随時）

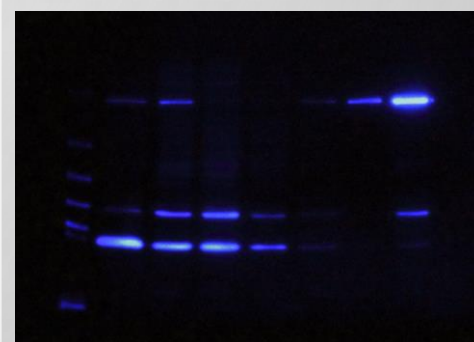
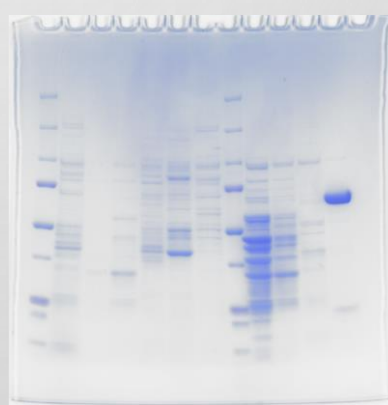
- ・ ヒトの体を構成する重要な成分にタンパク質があり、約10万種類のタンパク質が存在すると考えられています。
- ・ 私たちのラボでは唾液中の細胞外小胞の働きを調べています。この小胞には100種類以上のタンパク質が含まれているので、その中から感染症と戦うタンパク質や疾患の目印になるタンパク質を探しています。
- ・ 今回のオープンラボでは①電気泳動やカラムクロマトグラフィーによるタンパク質の分離、②特定のタンパク質の発光による検出などのデモを行いますので、普段の研究を体験していただきたいと思います。



タンパク質分離用カラム



電気泳動装置



タンパク質の検出

担当教員

膜機能ユニット 矢ノ下 良平

小川 裕子